ー絵のような地図　地図のような絵ー

絵図と風景

日本の地図の歴史といえば、伊能図のような正確な地図を思い浮かべるが、風景画的な絵図も重要な位置を占めている。本展覧会では、絵と地図が相互に補いあって出来あがった美しい作品を集め、これまでにない地図作成史を提示することを目指した。

特に、幕末に活躍した浮世絵師・五雲亭貞秀は、橋本玉蘭斎という名の地図作家というもう一つの顔を持ち、地理学と地図の知識を駆使した風景画的な鳥撤図を最も得意とした。それは江戸時代における地図発達と絵画美術とが融合したもので、見るに楽しい世界をくりひろげている。その流れは、「大正の広重」吉田初三郎から現代の鳥瞰図作家までつながっており、"絵のような地図"は庶民に最も親しまれていた。本展覧会は、これまでにない、庶民の立場から見たユニークな古地図展にすることができた。

東海道名所一覧　葛飾北斎

摂州一之谷写真　五雲亭貞秀筆

会期／平成12年年3月4日（土）～4月9日（日）

会場／特別展示室1、特別展示室2、南蛮美術館室

主催／神戸市立博物館、文化庁、神戸新聞社、サンテレビジョン、AM神戸

後援／NHK神戸放送局

協賛／（財）みなと銀行文化振興財団

開催日数／32日

入館者数／10，042人

出品件数／133点